

刊夕日十二月十

常磐每日新聞

定価一ヶ月五拾圓 郵費五圓
廣告料五拾圓 印刷費五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社



信仰とは

感化なり
真織雲山

私が佛書を著し、斯く佛説を受け賣りしてゐるとしても世に比類なき福徳圓滿の高僧ならんかと思ひかぶつて遙るゝ教へを乞ひに来る奇特の仁者がある。まことに光榮でもあり有り難た迷惑でもある。何れかといへば九分九厘が有り難た迷惑で、光榮の方は一厘がところもない。

説法を務めとしながら、人に教ゆるが迷惑とは慮外千萬と叱られるかも知らんが、第一に説く資格のない私に教へを乞はるゝがお門違ひである。第二、に卅分や一時間で悟れる程なら、釋尊一化五十年の長説法は無用なり、説いても分らんので最後に一字不説不立文字と逃げられたものと拜する(禪よりいへば一字不説が眞際である)尤も説くのが佛様で、聴くのが大迦葉といふ如き唯佛與佛の場合には、花を拵つたけで合点もゆかうが、先様が凡夫、拙者が凡夫といふ唯凡夫與凡夫では、啞とつんぼの時間つぶしで迷惑千萬といふことになる。

元來、信仰とは、議論言説ではなくして、教主釋尊の感化を受けることである。禪は釋尊の悟りにひとしからんと期し、眞宗信徒は親鸞聖人の信心に同化されんと期するもの、そのまた聖人は天親菩薩、曇鸞大師の二大士に同化されんことを期して、名を親鸞と改められた。祖師の信仰を關門と

いどころか、十年連れ添ふ女房さへ自由にはならず、手製の子供すら思ふに任せぬ感化し得ぬといふのは當方に感化すべき何物も持ち合せがないからである。タツタ一つあるのは慾だけこの慾が邪魔をして他を感化し得ぬ話になるのであるが、同時にこの慾一つで私は生きてゐるのだ、私の如き凡夫はこの慾が無くなれば早速安養の淨土へ晝寝に出かけること必定である、慾にも小慾大慾、上慾下慾などいろいろあり、釋尊は衆生濟度の爲めに生きたられたのであつた、欲の向上こそは修道の本筋であると思はれる。

紅茶珈琲の汚点のついた布はその部分に硼砂をぬりつけ、鍋に入れてその部に熱湯をそそぎかけ、後洗ふと落ちます

して潜り入り、その化益を蒙るのでなくては彼岸に到ること叶はず。偉大なる宗教家ほど、その感化は横に廣く、縦に久しい、信仰とは感化を受けてその對照たる佛にまでひとしからんと期することである。

二明日の献立
【朝】ほうれん草 すまし汁
【晝】牛肉 はす じゃが芋 こししょう旨煮
【晩】油揚 むきみひじきのふくめ煮

所が凡夫とは仕様のないので、斯く申す拙者の如きは一步戶外を感化し得ない



恋愛を創る

(K子のことゝも)

三村 哲朗
花園があり、そして前にはやゝ廣い空地があり、それは丁度水彩畫を想像させる様な所、そこはK子の家の周囲なのです。平家造りの多い、その近隣のうちに一端立つた白い瓦屋根の二階建ての家が彼女の住む家である。

三月卒業した許りの、女學生氣質のまだ抜け切らない彼女、多少インテリイー振つた茶目さんだ。世間馴れのせぬ初心な男なんざ一寸手出しの出来ぬ程、牙えた辯口の持主そのK子に、口の悪い或る男が彼女を攻撃した時、でも妾まだ之れでも處女だ、矢ッ張りはづかしい氣はあるワ、とか言つて居てそれでなかく、初心で圖々しい方か、そんな獨言みたへな事を言つたら、そうでもないワ、とは、その時彼女の言つた辨解なそうです。

平町風物歌(五)
島田忠夫
○三丁目所見
冬ものの衣ならべたるウキンドウに鼻押しつけて見る
は誰が子ぞ
○マルトモ附近
髪の毛を伸す若もの書買ひて豊間へ歸る乗合を待つ
○郵便局
新築の階上の窓ゆ見おろせる少女子のとも頬あをくあり

○大町附近
ほかほかの豆屋きたりて歌ふなる草津の唄の聲あはれなり
○城山
つぎつぎに文化住宅建ちにけり徳川の世を誰か思はむ

町民諸君に御挨拶

私儀大正八年以來職を當町に奉じ町民諸君の深厚なる御後援を忝ふ候處追々老境に入り且つ健康相勝れず候に付上水道擴張工事竣成を期とし今回退職致候爰に乍略儀以紙上御挨拶申上候敬具
昭和七年十月十四日
伏見彦衛

江戸前料理 合巻

紅葉に近き一日の行樂に
ぜひ錦水の御重入辨當を
御供させて下さい
ゼヒ一度御試食下さい
▼出前! 迅速! ▲
錦水
電話四五四番

は切貸

電話三四三番の
ミシサ
!!!へーシクタ和昭

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫
電話六三〇番(申込次第規則書進呈)

運動靴は...

月星長靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サーピス
金四十五錢より
ゴム長靴は...
月星靴を
堅牢優美で
かるいのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より

大塚支店

平・田町電話七七番

共済病院案内

院長 醫學博士 石山謙
内科 醫學博士 石山謙
小兒科 醫學博士 石山謙
外科耳鼻咽喉科 醫學博士 石山謙
喉科皮膚科 醫學士 石山謙
産婦人科 醫學士 石山謙
X光線科 醫學士 石山謙
衛生試験所 醫學博士 石山謙
製靴部 技師 石山謙
運動具部 技師 石山謙

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共済會
電話六四一番

縣營検査は民業壓迫

飽迄反對運動に努力

木炭業者が反對同盟結成

既報木炭検査の縣移管に就いては去る十七日郡山市に縣下木炭組合長會議を開いて熱議の結果田村組合一ツを残すのみで他の四組合は反對運動に協力する事となり近く木炭聯合評議員會を開き縣當局へ飽迄縣營中止の運動を爲す事となつたが濱三郡組合長早川清久氏は昨日反對運動促進の爲め反對既成同盟會の發表を爲し縣營検査は吾々民間業者を壓迫するものであると近く知事に對し陳情をなした木炭聯合會等と協力運動を開始する事となつた

成新一郎(同乙組)西山馨
黒川壽三(二年甲組)内海實
大高正巳(同乙組)齊藤一夫 梅原三郎(三年甲組)木幡八十八 草野忠悟(同乙組)木田英夫
緑川泰次(四年)四家肇
山田正直(五年)外村武夫
武田善之助

新川改修の起債が認可

工事認可も明日起工準備に移る

既報平町の失業救済事業として施工する事となつた平署裏より尼子橋に至る新川の改修工事は工費二万三千圓の内縣補助一万六千五百圓を得残り七千五百圓は起債する目論見で豫てより申請中の處本日右起債許可の指令に接したが工事認可も今日には来る豫定なので町役場では起工準備を急ぐが竣功は來年三月頃であらうと

警中教諭特別指導

進學志望者に

警城中學校にては目下上級學校入學志望者四年二十名五年二十五名、計四十五名に對し左記教諭が課外特別指導をなして居る

(英語)名尾 中柴 豊口
(國漢、數學)渡邊 梶原
山崎 河野

平商校の級長決定

平商業學校にては本日左の如く級長を決定した

(二年甲組)賀澤定一 金

水道課長には酒井助役兼任

主任技師に海老島氏

平町水道課長の後任は上水道工事の落成を見た今日技術専門的な課長の必要がなかつたので酒井助役が兼任することとなり主任技師には海老島氏が就任された

校職員チームの野球試合は本日午後二時半より警中グラウンドに於て縣中職員審判の下に行ふと

けふ職員野球

高等女學校職員對平商業學校にては來月六日警中グラウンドに於て催される石城郡

下小學校聯合体育大會に出場せしめる選手を左の如く決定した

△尋五男(八百米リレー) 西郡國八 瀧田平藏 佐藤進 鯨岡武弘
△尋五女(五十米)大越ワカ(猪狩フョ)(バ球投)渡邊照子(四百米リレー)青木タキ子 猪狩フョ 高田秋子 大越ワカ
△尋六男(走高跳)白土弘(バ球投)鈴木福壽 遠藤吉雄(八百米リレー)國井武之 難波一郎 遠藤吉雄 鈴木福壽
△尋六女(百米)高野弘子(バ球投)鈴木ひで(四百米リレー)高野弘子 荒木トキ 今田操 鈴木ひで

藥劑師試験

合格者三名

過般福島で執行された藥劑師試験に平署管内よりの受験者中左記三名が合格、本日平署に免許書が到着した

平町紺屋町五猪狩寅治
石城郡江名町北町五二吉田菊太郎 同郡玉川村字島九一遠藤定照

内郷匡救

工事村會

石城郡内郷村では來る廿五日午前九時より村會を開會匡救土木工事の道路改修工事の件に就いて附議すると

時勢に順應した教育上の主眼點

平第一校に參集して協議

濱三郡小學校長實業補習學校長及び青年訓練所主事の合同會議は來る十一月七八の兩日平第一小學校に於て本縣學務部長補習學校及び主事其他縣視學二名臨席の下に開かれるが當日の諮問事項は左の如くである

△諮問事項
時勢に鑑み國民教育上特に留意すべき事項如何
△聽取事項
一、女教員の活動狀況如何
二、時局に鑑み青年教育上教練並に實業科に

平町人事

回出生

△胡摩澤五十豊口欽哉氏四男義久
△一丁目三三岡島源平氏二女玲子
△十五丁目三十九保田公雄氏二女節子
△鎌田町五一當時石城郡内郷村字新町廿九佐藤大次郎氏四女カツ子

冬の通學服

原料高に逆行した英斷的の特價提供

黒小倉長ツボン付
一年生用 八十五錢ヨリ
弊店特製
一年生用 一圓五十錢ヨリ
モリタヤ洋品店
平5丁目 電353

外科 X光線科

安齊外科醫院

平町田町 電話四七五番

漆器の御買入時

漆器は空前の大暴落を致して居ります。再び得難き最低絶好の御買入時です。

(共) 漆器を豊富に在庫品に在るに努力致して居ります此の絶好機に御求めを切に御奨め申上げます。御満足を得るやう! 如く何様にも御相談に應じます故是非御照會を。

各國産漆器専門卸小賣店 共榮漆器店 (平町3丁目36元郵便局裏通)

店員募集 十二才...小職員 優遇す 三十才迄...外交員

度量衡、計量器、吸入器

關内藥局

電話四〇番

救ひの巡回診療 自動車班来る

昨十九日先づ鹿島村へ 順次醫者なき村を巡回

既報救療事業に基き平署内に常置される事になつた巡回診療自動車班の一行醫師吉野文郎、藥劑師上田茂、書記松浦誠、看護婦箱崎フサ、運轉手佐藤勇の

五名は 昨十九日より

巡回を開始し先づ鹿島村役場に向ひ午後四時迄無料診療をなしたがこの恩恵に浴せんと言め掛くる人々は農繁期に拘らず七十餘名に達

締切後も押掛けて押すなりの盛況を見た尙同自動車班は當分四丁目和泉屋旅館に陣取つて連日左記日割に依り醫師なき村に活動すると

(廿日)箕輪(廿一日)永戸(廿三日)川部(廿四日)荷路夫(廿五日)貝宿(廿七日)石住(十一月廿一日)川前

二七神札を 持ち廻る詐欺漢

縣社の名を騙つて

平市内には近頃偽大學生其他偽廢兵等の押賣りルンペンが横行して居るので其の筋でも嚴戒の眼を光らせ取締をなして居るが甚だしいのは最近平町の鎮守縣社子歛稻荷神社の名を騙り偽札又は同社と何等關係なき神札を配布する等不都合の者が往々あるので同社事務所にては若し右様の者が立廻つた際は直ちに電話九十一番に問合せられたしとの事である

明日は 運動會

平第一紅白別

既報平第一小學校秋季運動會は明日午前八時より開催されるので本日午前八時より各學年共練習を行つたが職員は紅白は左の通り(紅組)平塚、松本正、黒木、横田、井上、中村、古川、根本榮、瓜田、坂

職工を探し廻る

耳よりな求人

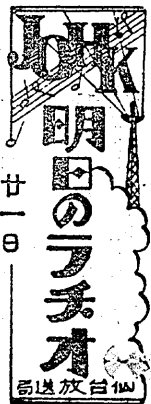
應募者タツタ一名

既報平職業紹介所で目下募集して居る某大鐵工場の旋盤工五名、仕上工五名は何れも日給一圓五十錢と云ふ耳よりな求人であるのに申込者は本日に至つて旋盤工一名の應募あつたのみで炭礦方面の職首工はどうなつたのか就職難の折柄にしては正に珍現象であるといふ所では鐘太鼓で探し廻り募集に努めて居る

辯論大會

平商で開く

平商業學校辯論部にては来る三十日午前九時より同校講堂に於てクラス對抗辯論大會を開催するが出演者は各クラス二名宛にて優勝一名準優勝二名とし参加者に



今晩は北西の曇り曇り勝ち明日は南西の風曇り

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
獨唱仙臺市小學校児童
後七、三〇 講演「續日本はどうか」法學博士下村宏
後八、〇〇 長唄(大阪中
央電氣俱樂部より中継)
網館吉住小三郎其他

明日の部

前六、三〇 秋季國文學講座
座奥の細道(抜抄)萩原

兒童榮養

週間計劃

平町各小學校にては来る十一月十五日より一週間中央社會事業協會提唱に係る第二回全國兒童榮養週間が實施されるので目下同週間の計劃考案中

圖畫研究教授

平第一小學校吉田訓導は本日尋常科第二學年の一組に對し圖畫の研究教授をなし批評會を開いた

愈よ秋刀魚群が

本郡沖合に襲來

岩手縣沖合の秋刀魚群は次第に南下して去る十七日に小名濱沖合二十哩の地点に押寄せたので目下小名濱、江名等の秋刀魚船が全部出漁して居るが十八日には江名町の稻荷丸が一萬尾を漁獲したと

丸太で殴る

魚の荷場に

後九時頃小名濱字古港地内海岸で魚の荷揚中居合した魚仲買人栗原三藏(三)と些細の事から口論をなし傍にあつた丸太にて栗原の肩を

材木窃盜

発見取押らる

石城郡内郷村字白水居住無職佐々木照吉(三)は十八日午後七時頃湯本町入山炭礦材木置場より松丸太を窃取せんとしたのを係員に発見され平署に突出されたので目下取調中

高月旬會

高月旬會 會例会は来る十一月十日二丁目萩野天氏宅に於て開れるが課題は蕎麥、秋の蠅、蕪である

平職業紹介所報告

回人を求める方
△女中 二十才 尋卒 給
料面談(平町某料理店)
△農夫 三十才 尋卒 給
料面談(江名町某)
△大工徒弟 十八才 尋卒
仕着小遣(神谷村某)

井泉水
前九、一〇 料理「鯛のつくね揚げ鳥賊松茸の青和へ」佐藤つぎ
前一〇、三〇 家庭講座
後一〇、五〇 少女歌劇「七夕船」寶塚少女歌劇花組
生徒同聲樂部專科生徒
後一、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」明治神宮外苑球場より中継
(運動放送なき場合)
後二、〇〇 婦人講座「水郷の秋を語る」松川二郎

後六、〇〇 (子供の時間)
お話し「エデン」工學博士
高津清
後六、二五 英語講座 初等科(十三)岡倉田三郎
後七、三〇 講演「超短波の性質と其の利用に就て」東北帝大助教授工學博士宇田新太郎
後八、〇〇 洋樂の夕「ラヴェルのまつり」日本放送交響樂團 指揮ニコライ・シムニエフ
後九、三〇 日本棋院秋季東西大手合戦績

木村外科醫院

門專科外花柳病科
院醫科外村木

平町五丁目
電話三〇九番



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

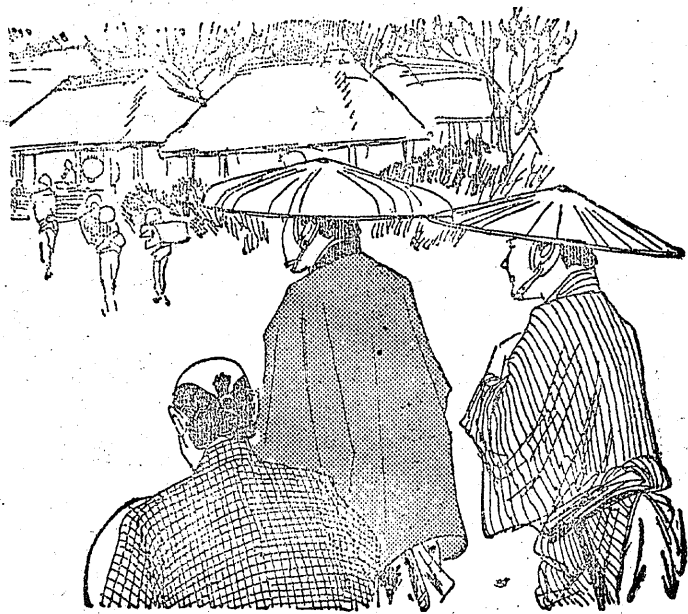
第一百七十九席 平手造酒

宿彌神社の修繕

勢力は平手造酒を連れて加納屋に戻つて来ると勢「又酒を飲みましたね、何うしてお前さんはさう酒を飲むと気が荒くなるか、奇態だな」云ふと造酒が苦い顔をし

仁「定めし若い者から聞いてたでございませうが、酒から起つた間違ひ、どうかは笑つて貰ひたい、お前さんから人数を出せば笹川からも人数が出る、さうなれば此處に血の雨が降るやう

る程の大きな喧嘩でもありませんまい、お互に酒が手傳つて出来上つた間違ひ、殊に鹿島の祭禮これを目的に商人も店を出してゐる、其中で喧嘩が出来れば多くの人が難儀をする、それ故は穩かにいたしませう、もう、私の事は心配しなさんな、それに繁藏は今病氣で勢力が親分代理としや此處へ出張してゐる、所で自分の連れて来た剣術遣ひから喧嘩の出来たは彼奴が親分に濟まなからう、それを思ふと勢力の立場が氣の毒だ、萬事お前さん方にお任せ申します」



造「イヤ小言を申すな、今日の喧嘩は俺が賣つた譯ではないぞ、先方から賣つて来た、どうぞ此喧嘩を買つて下さい、時節柄お値段はお安く致して置きますと、只管頼む故それでは不用品者であるが安く賣るならば買つてやらうと云ひ値で求めて町外れへ引出して刀を動かした、三人の耳と鼻を削いでやりまづ命だけは助けてやつた、然らばおれが好んで喧嘩を求むる譯ではない、押賣をいたすから據なく買つてやつたよ」

勢「押賣をした所で買はずに居ればようござんしたにとんだ物を買つて了つた、喧嘩を買ふなんてどうも困りましたよ」

と勢力は頻りに心配した、此方は仲裁した港の市兵衛に東金の仁兵衛、飯岡り助五郎の居る族宿大黒屋と言

な事になる、十一年振で出来た鹿島様の祭禮、三日で一年の生活を取らうと資本をかけた商人も迷惑する、どうぞこの喧嘩は私共に任して下さう」

と云はれて助五郎が助「お前さん方が心配をす

棒が揃つて耳と鼻を落されたのを見ると何うかして此仕返しをしたいものだと思つた所で高島郷太夫に志摩一角、鷹取運平の三人ですが是は己の武藝の未練なるを恥て當地に居ることもならず助五郎の許を立ち退きました、すると茲に平手造酒が圖らずも腕前を現し繁藏及び繁藏を憎み居る飯岡の助五郎等の膽を寒からしめる程の事が突發いたしました、それは何う云ふ事だと申しますに平手が食客してゐる笹川の繁藏が今度小見川の宿彌神社の修繕するに就て入費がかかる、これが自分の持つてゐる金では足りない、そこで花會を催してこれで上つた金にて宿彌神社を修繕いたすつもりまづ野見宿彌の功績を版に起しこれを刷物にして今度宿彌神社を修繕いたし又碑を建てるその趣意書を添へ應分のお力を添下さいと諸方の快客にピラを配つた、時は天保九年秋の事、何がさて人望のある繁藏の事だから當日は諸方の親方連が集まる、飯岡の助五郎の許へもこの刷物を廻したから助五郎の一子分州の崎の政吉が親分代理として五兩の義理と三兩は子分一同として合して八兩の水引のか、つた包みを持つて出て行く政吉は之では尠いと思つたが親分の事ですから仕方がない、荒濱の勘太に櫻井の三八、猿の長吉の三人を伴れて六里餘りある笹川に来ると町の商人家には提

おとなしい挨拶、市兵衛も仁兵衛も流石に助五郎は大親分、能く勘辨したと大層喜んで勢力にもこの事を話、まづこの事はこれで大きくもならず済みましたか助五郎は好い心地がしない、自分の許に居る用心

灯が出てゐる、まるで祭りのやう、政吉は繁藏は大した人望家だとこれを見て思ひました

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 胃性
林病 腸胃病 傷風
門專 院醫科
院醫科 院醫科
〇七一話電

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電一七南町

鳥 松茸 よせなべ 井類種々
右大々勉強 出前迅速
◎滋養豊富! 風味美味!
是非一度御試食を.....
大蒲焼・鳥料理 魚榮
壽司・折詰仕出し 田町(電話四二四番)

毛糸
本年度新色全部揃いました
御値段は昨年と同じで差上ります
一オンス 十五銭
〔見本帳進呈〕
田町
シキヤ糸店

三河産業博覽會 昭和三十二年 金牌受賞
かまぼこ 製
お惣菜 さつま揚 吉原場
平町一丁目
電話一四一番